

延命寺報

慈光

平成 29 年 1 月
第 2 号

謹賀新年



住職挨拶

阿部雄峰

新年あけましておめでとうございます。
本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、皆さんは新たな年を迎えると、善き年になるように、まず目標を掲げられることだと思います。私たち禅宗の僧侶は、年始めに「遺偈」というものを作ります。

遺偈というのは、禅僧がその生涯を閉じる時に残す辞世の句です。正月早々に自分の死を思って辞世の句を残すという、なんだか暗くて、じめじめして、ぜんぜんおめでたくない、というように思われるかもしれませんが、しかし、禅僧は死を思うことはとても善いことと考えるのです。

私たちは普段、平均年齢が八十いくつだから、医学は進歩しているから、などと考え、死が遠くにあるように思っていますが、実は死と隣合わせに生きているのです。昨年の熊本の震災などは、まさにそれを教えてくれた出来事でした。予期せぬ突然の事故もあります。子どもだから、健康だから死なないということはないのです。今、笑っていても明日どうなるのか、次の瞬間どうなるのか、誰にもわからないのです。そのことを見失うがために、人は急げたり、腹を立てて争ったり、いつまでも嫌なことを引きずったりするのです。

死と隣り合わせだということを忘れずに生きると、今、この時、一瞬一瞬の大切さに気づき、自然と正しく生きようとなります。常にそのように生きることができたならば、必ずや善い年になり、後悔のない善き人生となるのです。私自身も死を念頭に置いて遺偈を作り、日々精進したいと思います。

合掌

大般若会



二月十一日(祝日)午後二時より、檀信徒の皆さんの一年の無事を祈る「大般若会」を行うことになりました。大般若会について簡単に説明いたします。

大般若会は仏教の中心思想である「一切皆空」(この世のすべては常なものではなく、絶えず変化し続けている)という理が記されている『大般若波羅密多經』を誦する法要です。

『大般若波羅密多經』は、皆さんご存知の『西遊記』に登場する玄奘三蔵法師が西暦六二九年に、当時唐と呼ばれていた中国から、当時天竺と呼ばれていたインドに命がけで渡り、持ち帰られた教典の一つです。この教典を誦すると、あらゆる苦厄が消え去り、幸福を得ることができると伝えられています。

大般若会の際は、本堂須弥壇上に十六善神と呼ばれる、十六人の神様が描かれた掛け軸が飾られます。十六善神は『大般若波羅密多經』を誦する者を守護してくださる神様といわれています。十六善神に見守られながら、有り難い『大般若波羅密多經』を読ませいただきます。

『大般若波羅密多經』は六百巻、総字数約六百四十万という膨大な教典です。そのため、法要中は「転読」という読み方で誦します。

転読というのは、偈文を唱えながら、経本を左右に威勢よくパラパラとめくることをいいます。住職とご随喜のお寺様で一心に転読します。その一心に転読する功德が人びとを幸福へと導くのです。

また、法要中に皆様に「焼香していただきますが、その際に皆様の肩や背中に大般若経を当てて、更にお経の功德をいただきます。また、ご祈禱した御札もお渡しいたします。

皆さんの一年が素晴らしい年になりますよう一生懸命祈念させていただきます。ぜひご参詣いただきたく思います。

御祈禱料 五千円

※準備の都合のため、お参りされます方は、同封のがきにお名前・ご住所をご記入の上、投函してください。

※当日不参加の方の法要も行えます。その場合は、お手数おかけしますが、現金書留で祈禱料五千円を延命寺宛(〒四九〇一―一五 あま市坂牧郷三〇)に郵送してください。法要後に祈禱札と御供物をご自宅に郵送させていただきます。

寺を守護する神様

延命寺の復興を願い、寺を守護する神様「広目天」「增長天」「持国天」を寄附させていただきました。



「広目天」は、「浄天眼」といわれる特別な眼で世の中を観察し、衆生を導き守る神様です。



「增長天」は、生育、増長する力から五穀豊穡を司神様です。



「持国天」は、領土を守り、人々に安心をもたらす神様です。

ぜひお参り下さい。

正月とは



正月は家に歳神様をお迎えし、お祝いする行事です。歳神様は「正月様」「歳徳神」とも呼ばれる神様で、私たちの先祖のことです。昔の人は先祖の霊が田の神様や山の神様になり、正月には歳神様となって、豊作や子孫繁栄をもたらしてくださると考えていました。ですから元旦になると歳神様となった先祖が子孫の家に帰ってこられるというのが正月の行事なのです。

ちなみに門松やしめ飾りをするのは、歳神様が道に迷わないための目印なのです。ですから、門松やしめ飾りをしないと歳神様は帰ってこられない可能性があらますので、飾るにこしたことはありません。

新年に「明けましておめでとうございませう」といいますが、現代では「無事に新年を迎えることができてください」という意味で使われている方が多いと思います。しかし、それは間違いなのです。本来この言葉は、「歳神様をお迎えてきたことが非常にめでたい」という気持ちで言葉にした言葉です。この言葉をもちいて歳神様が帰ってこられた喜びを周囲の

人たちとわかち合うのです。

元旦に帰ってこられた歳神様は小正月まで各家庭にとどまるといわれています。小正月には、神社や寺の境内に、門松やしめ飾りなどを持ち寄って燃やす「左義長」が行われます。地域によっては「どんと焼き」「どんと焼き」などともいわれます。その炎で焼いた餅を食べると無病息災、書き初めを燃やすと字が上手になるなど、様々な言い伝えもあります。新年に訪れた歳神様は、炎によって起こる煙に乗って天上にお戻りになられるのです。歳神様がお戻りになられると正月の行事が終わります。

以上が正月の簡単な内容ですが、先祖を家に迎えて、時期が来たらあちらの世界に送り出すという行事は、他の年中行事にもあります。仏教行事である「お盆」です。「お盆」も八月十三日に迎え火を炊いて先祖を迎え、八月十五日に送り火を炊いて戻っていただきます。「お盆」と「正月」はまったく違った行事のように思われますが、先祖の霊を迎え、もてなし・送るということは同じなのです。

正月の起源は詳しく分かっていませんが、日本の行事の中で最も古く、仏教が伝来する前には存在していたことは分っ

ています。仏教が伝来し、仏教の供養と先祖が帰ってくるという日本古来の思想(神道)とが融合し、帰って来る先祖にご供養するといってお盆の行事が日本に生まれました。お盆は仏教の行事、正月は神道の行事ですが、日本人はどちらも大切にしてきました。ここに日本人の宗教に対する特色が表れています。他の宗教を否定せず受け入れていくという特色です。

現代においてもキリスト教の行事であるクリスマスを行い、神道の行事である正月を行い、仏教の行事であるお盆を行います。他の宗教を否定し、争うようなことをせず、うまく共存していくように考えるのです。そういう柔軟で寛大な心を日本人は具えているのです。素晴らしいことです。

皆さんのご家庭にはきっと歳神様(先祖)が帰ってこられています。基本はお盆と同じですので、お仏壇や神棚にお供えをして、手を合わせ、穏やかな気持ちで先祖との善き時間をお過ごしください。



精進ごはんレシピ



寒さが増すにつれて美味しく旬野菜いっぱい栄養満点

[かぶらの五目あんかけ]

材料（4人分）

かぶら…4個 木綿豆腐…300g ごぼう…20g 人参…20g 大根…20g 干し椎茸…2枚
しょうが…適量 昆布だし…2カップ 薄口醤油…大さじ3 みりん…適量 サラダ油…少々 葛粉…10g

作り方

- ①かぶらの上下を切り落として皮をむき、ゆでて器に盛る。葉は残しておく。
- ②豆腐は水抜きし、サラダ油を熱して豆腐を細かくほぐし入れ、箸でまぜながらパラパラになるまで炒る。
- ③ごぼう、人参は半月にし、大根はいちょう切りにする。干し椎茸は水でもどして細切りにする。
 - ①のかぶらの葉は細かく刻む。
- ④鍋に油を熱して③を炒め、昆布だし、みりん、薄口醤油を加えて5分ほど煮る。
- ⑤鍋に②を加えて葛粉を同量の水で溶いたものを加えてとろみをつける。
- ⑥①のかぶらに⑤をかけ、すりおろしたしょうがをそえる。

お知らせ

◆延命寺年間行事

二月四日(土)	十六時	初地蔵供養会
二月十一日(土)	十四時	大般若会
三月四日(土)	十五時	初観音供養会
四月一日(土)	十五時	永代供養会
八月一日(火)	九時	盆大施餓鬼会
八月十五日(火)	十九時	精霊送り
九月二十三日(土)	十五時	開山忌
十一月三日(金)	十七時	薬師供養会

◆客殿(旧庫裏)修繕工事

今までの庫裏を客殿とし、法要控室や集いの場等の多目的施設としてご利用いただけるように簡単な修繕工事をします。
工事期間は、二月中旬～三月中旬までを予定しています。
その間客殿はご利用できません。ご迷惑をおかけしますが宜しくお願い申し上げます。

㊦寄附の御礼

千種区 三ツ矢治雄様
庫裏修繕費

緑区 渡辺宣子様
庫裏修繕費

深く御礼申し上げます。

㊦編集後記

前回の寺報を読まれた方から、「お寺が近くに感じられる」「次回も楽しみにしている」といった嬉しいお声をいただきました。有難うございました。より充実した内容になるよう一層精進してまいります。

青林山 延命寺

☎ : 490-1115 愛知県あま市坂牧郷 30

☎ : 052-444-0109 FAX : 052-485-6496

※月参り・命日のお参りなど随時受け付けております。

HP を開設しました。最新情報はこちらを御覧ください。

<http://www.seirinzan.com>